

社会・健康対策特別委員会委員会調査報告書

令和7年1月29日（水）に、未病バレー「BIOTOPIA」において、次の事件について調査を実施したところ、その概要は別紙のとおりでした。

【調査事件】

未病改善の取組について

令和7年3月18日

神奈川県議会議長

柳 下

剛 様

社会・健康対策特別委員会委員長 山 本 哲

1 調査の概要

(1) 調査日程

令和7年1月29日（水）

(2) 調査箇所

未病バレー「BIOTOPIA」（足柄上郡大井町山田300）

(3) 出席委員（計11名）

山本哲委員長、永田磨梨奈副委員長、
吉田あつき、田中信次、田中徳一郎、相原しほ、須田こうへい、望月聖子、
吉川さとし、京島けいこ、鈴木ひでしの各委員

(4) 随行者

高村主任主事（議会局議事課）、佐藤副主幹（政策局総務室）、
曾根副主幹（総務局総務室）、南埜主任主事（健康医療局総務室）

(5) 行程

県庁～未病バレー「BIOTOPIA」～県庁

2 未病バレー「BIOTOPIA」

(1) 調査目的

未病バレー「BIOTOPIA」は、県が株式会社ブルックスホールディングス及び大井町と連携し、未病についての情報発信機能や県西地域の活性化につなげるためのにぎわい創出機能などを持つ施設として設置し、株式会社ブルックスホールディングスによって整備・運営されている。

そこで、同施設の取組を聴取し、さらに施設内視察することにより、未病改善の取組に係る委員会調査の参考に資するものとする。

(2) 調査先出席者

ア 株式会社ブルックスホールディングス出席者

代表取締役社長、ビオトピア事業推進本部長

イ 政策局出席者

田中賢地域活性化担当課長

ウ 健康医療局出席者

湊治子健康増進課長 ほか

(3) 委員長挨拶



(4) 株式会社ブルックスホールディングス代表取締役社長挨拶

(5) 概要説明

以下の内容等について、説明があった。

- ア ブルックスグループのご紹介
- イ ウェルライフ事業
- ウ 超高齢者社会と100歳超人口の増加
- エ 日本の人口減少
- オ 平均寿命と健康寿命のギャップ
- カ 県西地域活性化プロジェクト（2016～2021年）
- キ 健康寿命を延ばす取り組みが必要
- ク 未病とは？
- ケ 近代西洋医学と組み合わせる療法
- コ 未病改善複合体験の提供「食」「運動」「癒し」
- サ 県西地域の賑わいの創出
- シ 今後について
- ス 神奈川県ホームページの変化

(6) 質疑応答

質 疑 ウェルネスツーリズムについて、具体的にどういったアクションを起しているのか。

応 答 昨年11月に、神奈川県から初めてベトナム観光セミナーの誘いがあり、ベトナム現地の旅行会社を対象にしたプレゼンの機会をもらった。未病バレー「BIOTOPIA」の紹介ビデオを用いて、言葉でのプレゼン

だけでなく、動画で見てもらおうようにした。当日、旅行会社40名の方からアンケートを頂き、モデルプランを示したことで感触も得ることができた。どういった方を対象としたらいいのかとニーズ、ベトナムのマーケットとしてどうなのかということについて、分かったことがあった。日本にいと外国人のニーズが分かりづらいが、現地へ行くと、わざわざ日本での健診ツアーの企画は必要なく、健診ツアーは東南アジアで十分賄えると分かった。さらに、美容の部分で日本に期待していると分かった。鍼灸マッサージ師会の方からも美容針がすごく人気だと聞いている。

未病とは離れるが、現地のニーズとして捉え、一つのアンサーとなるのではないかという感触を得た。旅行会社の方々には、旅行を企画する前に未病バレー「BIOTOPIA」への来訪を働きかけ、旅行プランへの参考とするよう勧めている。地域で連携できる人間ドックや美容針、美容点滴をやっている事業者もあり、連携を深めるため、我々も県西地域でウェルネスツーリズムのプランに協力いただける方を探しているところである。

質 疑 2点質問がある。

改定計画を見ると、従来フィールドであったところがリトリートゾーンに生まれ変わる。見直しの経緯や採算性について教えてほしい。

また、以前視察した際に、初期経費が1億9,000万円くらいかかり、年間経費が4,000万円くらいかかると聞いて、費用対効果がどうなのかと疑問に思った。この改定計画にそういった部分は反映されているのか、関係費の状況がどのように変わったのか、現状を教えてほしい。

応 答 見直しの経緯や採算性について、評価と見直しの必要性を分析したところ、2022年度のアリーナの稼働率が45%、フィールドが12%であった。夜間照明がないということや、週末の利用が多く、稼働状況がよくない状況であった。我々としては総天然芝であること、広いことを売りにしており、Jリーグサッカー選手がオフシーズンにプライベートで練習に来たり、高校サッカーの練習に使いたいというコアな利用形態があるが、稼働率を考えると3万平米の土地が有効活用されていない。その状況を鑑みて、当初、ホテル計画は別の場所に考えていたが、フィールドが南側に位置し、閑静で富士山が綺麗に見えるロケーションであったため、このポテンシャルを別の形で考えたほうがいいのではないかと考え、フィールドを含めた一帯をリトリートゾーンとすることとした。長期滞在

型の宿泊施設を誘致しながら、地域を周遊する拠点としてヘリポートを設けて、羽田に来た方がヘリで直接来ることができて、ここから富士山の観光などを楽しめるようにしたい。

今、いろいろな国から観光客が来ているが、観光消費額の13%くらいが富裕層である。全体の観光客のうちの1%である富裕層が、観光消費額の約13%を占めている。インバウンドのどこをターゲットにしていくのかと考えたときに、これからBIOTOPIAの未病の取組を持続可能にしていくには、富裕層に来ていただくようなコンテンツをつくっていかないと、日々、マルシェやレストランを御利用いただいている日帰り客だけを対象にしているのではいろいろな経費を賄えない。そこを県にも御理解いただき、改定基本計画で事業を見直していく。

年間の経費に関して、オープン当初の年間経費は何も開拓しない場合はそれだけで済むが、年によって実際は倍近くかかっている。その内訳として、例えば現在、南側の外周道路の電柱地中化の工事を今年4月まで行っている。景観を重視した今後のホテル計画に向けて準備している。また、スパをオープンしたため、そのアプローチとして、電柱のない里山の景観や富士山が見える景観を重視している。事業者としては、税金もかかっているので経費がどのくらいかというのは難しいが、事業を維持していくために、本業での事業も関わり、支えながら、BIOTOPIAサイドでもイベントなどで多くの方に使っていただけるような場所づくりを進める。本業においてはヘルスケアに特化したサイトを先月12月4日にグランドオープンし、ヘルスケア通販がビオトピアマルシェという名前で始まった。そういう展開を含めて収益構造を改善していきたい。

質 疑 収益が見込めない中、改善を目指して頑張っているのか。今後、富裕層のターゲットが入ってきたとして、中長期で見たときに、黒字化は見据えているのか。

応 答 当然見据えている。計画通りにいくかということ、運営側としては20年計画だと思っている。今のまま20年だと失敗の事業になる。ブルックスグループだからできる20年事業と捉えている。二、三年後に10周年を迎える。健全な経営状態にしていくための大事な二、三年と認識している。日々の売上げをつくっていくことに意識を集中させていくことがこれから大事になってくる。これまでの「オープンしたばかりでいきなりは無理だ」という意識では成り立たない事業である。これからは、売上げをつくるというのが一番の主題である。

質 疑 3点質問がある。

ウェルネスツーリズム（インバウンド）を進めるということだが、未病改善として県民の健康増進の観点から、ウェルネスや癒しの部分でコンスタントに利用している地域の皆様がどれくらいいるのか。

県の取組として未病改善のアプリを作っている。最近では健康管理のアプリを使っている方も多いと思うが、施設利用者のアプリと施設の連携はあるのか、今後はどう考えているか。

また、アクセスについて、近くに住んでいる方だと車が多いと思うが、今後アクセスの改善も大事だと思う。公共交通、その他、こういった考えがあるのか。

応 答 コンスタントな利用について、マルシェの物販やレストランの利用にポイントカードを配布している。ポイントカードの取組でリピーターをつくっている。そういった方は日常的に利用いただいていると考えている。来場者の居住地域は、県西地域2市8町でほぼ6割程度を占めている。

未病改善のアプリについて、m e - b y o エクスプラザにアプリを設置しているが、B I O T O P I A として詳細な運用状況は把握していない。m e - b y o エクスプラザは県が委託をして運営している。先ほど述べた未病改善のアプリや未病チェックシートを設置している。正確な利用人数は分からないが、平均して1日に10人にいかないところで気になった来場者に使ってもらっている。

アクセスについて、地元の交通事業者である富士急モビリティの経営状況がコロナにより思わしくなく、便数が減っているのは事実だが、一方で、松田町を中心としたA I オンデマンドバスの「のるーと」が運行しており、B I O T O P I A にも2か所の停留所がある。オンデマンドバスは、アプリで自宅近くの乗降スポットから利用いただけるため、自家用車を運転できない方の利用が増えている。のるーとは3年間の実証実験の途中であり、継続するよう利用者を増やしていきたい。

(7) me-byoエクスプラザの視察



(8) fit&spaレ・テルムの視察





(9) 副委員長挨拶



(10) 調査結果

○ 未病バレー「BIOTOPIA」において、運営事業者である株式会社ブルックスホールディングスが、県及び大井町と連携して進めている未病改善の取組は次のとおりとのことであった。

- ・ 未病バレー「BIOTOPIA」は、平成30(2018)年に開始された未病改善の取組であり、事業開始から7年目を迎える。
- ・ 日本の高齢化が進んでおり、健康寿命と介護が必要となる寿命とのギャップを埋める必要性が高まっている中、神奈川県ヘルスケア・ニューフロンティア政策に基づき、未病改善と地域活性化の取組を進めている。
- ・ 「食」「運動」「癒し」を三つの柱として未病改善に貢献することを目的にしている。
- ・ 健康から病気へ進行する前の未病状態に焦点を当て、民間事業者として様々な療法を組み合わせ、統合医療の考え方を取り入れている。
- ・ 食事、運動、癒しのカテゴリーで、具体的には屋内運動施設の提供、森林セラピーなどを実施している。

- ・ 鍼灸やアニマルセラピーなどの民間療法を取り入れ、医療との連携を模索している。
 - ・ 県西地域のにぎわい創出のため、年間2回の大規模イベント（キャンプラグド、未病の日、サマーチャレンジ in ビオトピアなど）を開催している。
 - ・ 来場者数は累計で200万人を達成し、地域活性化にも貢献している。
- 未病バレー「BIOTOPIA」の今後の事業計画及び展望は次のとおりとのことであった。
- ・ 県に改訂基本計画を提出し、地域のニーズに応じた事業の見直しを進めている。
 - ・ 三つのゾーン（森のがっこうゾーン、ウェルネスにぎわいゾーン、リトリートゾーン）を中心に事業を進めていきたい。
 - ・ 企業・団体の未病状態を改善していく必要があると考え、新たな取組として、企業・団体向けに支援プログラムを提供し、コミュニケーションの促進やチームビルディングを支援していきたい。
 - ・ インバウンド観光客の増加に対応するため、未病改善をテーマにしたウェルネスツーリズムを展開し、未病改善の取組を海外にも広めていきたい。
 - ・ 統合医療を進める中で、医師や鍼灸師の協力を得ながら持続可能な形で事業を展開していきたい。
 - ・ 神奈川県の方針に不安を感じており、今後の方向性については慎重に検討している。
- これら未病バレー「BIOTOPIA」について調査したことにより、未病改善の取組に関する事項について、今後の委員会調査の参考に資するものとなった。